

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°29 カリーム・ヴィオネ

生産地方：ボジョレー

新着ワイン5種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ カー・ヴェー 2021 (赤)

2021年は、ブドウが晩熟でいつもよりも涼しく雨の多い年だった。7月初めに雹が降ったが、被害はほんの一部の区画だけで品質と収量には全く影響がなかった。カリーム曰く、発酵はまるで教科書のようにとても順調だったとのこと。出来上がったワインは、果実味がジューシーで明るく、口の中に染み入るようなキュートな酸がとても魅力的！タンニンは限りなく繊細で、塩気のあるタイトなミネラルと酸がワインの旨味を引き上げる！フランボワーズなど、グラスに注いだ途端に立ち上がる華やかな香りもパーフェクト！2021年ボジョレーは一般的にオフ・ヴィンテージという評価が多いが、カリームのところはどうやらその心配はなさそうだ。いや、むしろ逆に、アルコール度数13%とは思えない果実の清涼感とジューシーさは、ここ近年のカー・ヴェーの中では群を抜いている！

AC ボジョレー・ヴィラージュ デュ・ブール・ダン・レ・ピナール 2022 (赤)

2022年は、ブドウが早熟で太陽に恵まれた年だった。一方で、5月から8月下旬まで雨のない記録的な日照りの年でもあった。今回は、アルコール度数の高いジャーミーな味わいを避けるために、8月下旬に降ったにわか雨の直後のタイミングを見計らって一気に収穫を試みた。結果、収穫日は、初めて8月収穫を経験した2020年よりもさらに早かったが、潜在アルコール度数は13%をキープし、収量も45hL/haと例年並みにまで引き上げることに成功した。出来上がったワインは、香りが華やかで、太陽に恵まれた年らしい熟した果実のジューシーな凝縮味が口に広がる！たっぷりの果実味に負けないミネラルとタンニンもしっかりとあり、味わいのバランスは超絶妙！酒質はいつも通りエレガントだが、余韻に連れてブドウのエネルギーを感じる！今飲んでワインは十分に滑らかで美味しいが、そうは言ってもあのヴァンナチュールの大家ジュール・ショヴェの畑、もう少し寝かせてさらなるポテンシャルを引き出してみたくなるようなワインだ！

AC シループル ヴァン・ド・カヴ 2022 (赤)

カリームのフラッグシップワインであるヴァン・ド・カヴ。2022年は、ブドウが早熟で太陽に恵まれた年だった。一方で、5月から8月下旬まで雨のない記録的な日照りの年でもあった。夏の猛暑により一部西日の強い日差しに当たったブドウが焼けてしまい収量が減ってしまったが、トータル的には36hL/haと極度の水不足だったにもかかわらず、予想以上に満足の行く収量が確保できた。醸造は、ブドウの窒素不足により酵母の働きが弱く、若干発酵に手こずったが、発酵の順調だったボジョレー・ヴィラージュの澱を加えるなどしてどうにかトラブルなく完全発酵を遂げることができた。出来上がったワインは、前年同様に最初のアタックはピロードのように滑らかで、凝縮した果実味が甘みを感じるくらいにジューシー！タンニンもウェットで、塩気のあるミネラルと一緒に口の中に溶けていく感じが何とも心地よい！さすがは一番人気のキュヴェ！たっぷりの果実の旨味が五臓六腑に染み入るようなとても魅力的なワインだ！

AC シェナ 2020 (赤)

2020年は、ブドウが早熟で太陽に恵まれた年だった。だが、前年同様に猛暑と水不足が続き、収量は19hL/haと大幅減だった。収穫したブドウは果汁が少なくタンニンが多めだったので、マセラシオンはピジャージュもルモンタージュも一切行わずタンニンの抽出を極力抑え、また、低温による温度管理でワインの酒質を滑らかに仕上げた。熟成は、果実の旨味を生かすために樽からステンレスタンクに替え、熟成期間も短くした。出来上がったワインは、コクのある果実味が艶やかでとてもジューシー！口の中で時々弾けるオレンジやシャクヤクのフレーバーがあり、柔らかな果実味に溶け込むキメの細やかなタンニンにメリハリの効いた心地よさを感じる！フィネスある味わいは、ブラインドだとコート・ド・ニュイのピノノワールを彷彿させる！

AC シェナ ヴィエーユ・ヴィーニュ キュヴェ・ノエミ 2021 (赤)

今や父カリームのフラッグシップであるシルーブル ヴァン・ド・カヴを超える高い評価を受けている、キュヴェ・ノエミ！カリームのシェナとの違いは、カリームが南西の畑に対しノエミの畑は北向き、また、カリームの畑が小石（ガレ・ルレ）の多い土の密度の高い泥土の砂地に対し、ノエミの畑は水はけの良い砂地と、ヴィエーユ・ヴィーニュでもエレガントなワインに仕上がりがやすい特徴がある。2021 年は、近年には珍しく冷涼な天候で、まさにキュヴェ・ノエミのエレガントなキャラクターが体現された年だった。醸造は、酒質を滑らかに仕上げるためにマセラシオン温度を 16℃と他のキュヴェよりも低い温度で管理し、さらに熟成は、フレッシュな果実味を生かすために、タンクでの熟成期間を短くしてボトル詰め後の瓶熟成に委ねた。出来上がったワインは、みずみずしくチャーミングで、赤い果実のエキスだけを抽出したような繊細な味わいに仕上がっている！軽快な味わいを楽しみたいのであれば今飲むのがベストだが、もう少し寝かせるとさらに隠れた色気がどんどん出てきそうな…そんな魅力あふれるワインだ！

ミレジム情報 当主「カリーム・ヴィオネ」のコメント

2020 年は、2003 年に次ぐブドウが早熟な年だった。冬は暖冬で雨も適度に降った。春の遅霜はなく 4 月、5 月はむしろ初夏のような暑く乾燥した天候が続いた。開花も順調に終わり、5 月終わりの時点で早期収穫と豊作が予想された。6 月、7 月も雨の降らない乾燥した天候が続き、ブドウの病気がほとんどない反面、日照りによる水不足が心配された。8 月に入っても雨がなく、ブドウの房が小振りそのまま成長にブレーキがかかり始めた。だが、幸い 10 日、16 日、21 日とまとまった雨が降ったおかげで、最終的に果汁を多く含んだブドウを収穫できた。

2021 年は、日照量が乏しく天候の安定しないとても厳しい年だった。冬は例年並みで、久しぶりに畑に雪も積もった。ブドウが一斉に芽吹く 4 月上旬、フランス全土に渡り大規模な寒波が降りた。どの地域も霜による甚大な被害が及ぶ中で、ボジョレーは奇跡的にほとんど被害がなかった。その後は 5 月まで雨の多い不安定な天候が続いた。6 月の開花時は、ちょうど雨が止んでくれたおかげで花流れの被害はなく、ブドウの房も例年並みに付いた。これから本格的な夏が期待される中、6 月終わりから再び天気が崩れ始めた。7 月 3 日には雷が降りボジョレー・ヴィラージュの畑など一部が被害に遭った。その後も雨と気温の上がらない不安定な天候が続き、畑はミルデューと黒痘病の猛威に晒された。8 月の半ばから天候が回復し、病気の猛威も収まり、ようやくブドウの成熟にアクセルがかかったが、長引いた不安定な天候が大きく影響し、ブドウの成熟は最後までバラバラだった。

2022 年は、2003 年に次いでブドウが早熟の年だった。冬は比較的温暖で雨も適度に降った。4 月上旬に寒波が降り一部霜に当たったが、収量にはほぼ影響がなかった。寒波の後直ぐに今度は急激に気温が上がり 4 月、5 月と初夏のような天候が続いた。ブドウの成長も一気にスピードを上げ、5 月終わりの時点で例年よりも 1 ヶ月早い成長を見せた。また、開花も順調に終わり豊作が期待された。だが、一方で日照りが 4 月後半から 8 月まで続き、ブドウは慢性的な水不足のストレスを抱えていた。幸い、夏は昼夜の気温に寒暖の差があり、夜は比較的涼しかったので、ブドウもどうにか水不足に耐えることができた。8 月中旬に、2 日にわたり待望の雨が降ったおかげで、ブドウは一気に息を吹き返した。最終的に、記録的な日照りの年だったにもかかわらず、収量に恵まれた！



(写真①)カー・ヴェーのランティニエの畑

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

9 月 25 日、収穫状況と今回リリースするワインの情報取りのためにカリームのドメーヌを訪問した。

これはボジョレー・ヴィラージュカー・ヴェーの区画のひとつ、ランティニエの畑の写真。(写真①) 9 月下旬なのでてっきり収穫が終わっているかと思いきや、まだ継続中だった。カリーム曰く、今年は大豊作の年でブドウの房が多く、予想以上に完熟に時間がかかっているそう。それにしても、見てくださいこの傾斜！下に止めているトラックから収穫者のいる畑の中腹まで登る途中に写真を撮ったのだが、あまりの傾斜に足はパンパンに

張り息も終始上がりっぱなしだった。ケヴィンのボジョレー・ヴィラージュ マルシャンの畑も相当急だったが、カリームの畑はそれを上回る傾斜だ。この標高と傾斜を見ると、カー・ヴェーが清涼感のあるチャーミングな味わいであることに合点がいく。

カリーム曰く、今年は収穫者の確保が大変だったとのこと。いつも常連だったポーランドの収穫者は、ウクライナ戦争の影響で国境の取締りが厳しくなりキャンセルとなった。代わりに、今年はフランス人とモロッコ人の収穫者を集めたが、収穫未経験者が多かったため、カリームが毎日畑に出て細かい指導に当たった。カリームが畑に毎日することになったため、2023年のカーヴの作業は信頼する娘のノエミにほぼ任せただけだそう。



(写真②) デキュヴァージュを行なうノエミ

これはカーヴで作業をするノエミの写真。(写真②) ちょうどデュ・ブル・ダン・レ・ピナルのデキュヴァージュを行なっている最中だった。写真からも伝わるように、作業をしている彼女の顔は真剣そのもの。声をかけるのも躊躇してしまうくらいの緊張感が彼女から伝わってくる。作業がいったん落ち着いた頃合いを見計らい、ノエミに今年2023年のミレジムについての感想を求めると、彼女は笑顔で親指を立てた。「今年は豊作でブドウの果汁も多く、発酵もいまのところとてもスムーズに進んでいる。ワインも私好みの果実味がジューシーなタイプに仕上がろうだ！」と満足げに語ってくれた。振り返れば、2019年にカリームのアシスタントとしてドメーヌを手伝い始めたノエミ。当初から小さなノートを常に持ち歩き、カリームの言うことに真剣に耳を傾けメモを取っていた初々しい姿を思い出す。あれから4年が経った今は、もう父のアシスタントではなくすっかりヴィニョロンの顔となっている。娘のノエミの前では決して言わないが、カリーム自身も彼女の才能を認め、今は醸造も100%任せるくらいに絶大な信頼を置いているのだそう。確かに、彼女の仕込むキュヴェ・ノエミは、彼女のセンスの良さが全面に出たエレガントなワインで、今やドメーヌのトップ・キュヴェと言っても過言ではない。

ノエミが中心となって仕込む2023年ミレジムは一体どんな景色を見せてくれるのだろうか…今から楽しみだ！

(2023.9.25.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ